

医学教育分野別評価 京都府立医科大学医学部医学科 年次報告書 2023 年度

医学教育分野別評価の受審 2022（令和4）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 33
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34

はじめに

本学医学部医学科は、2022 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023 年 2 月 1 日より 3 年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34 を踏まえ、2023 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年 6 月 20 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。

また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育 分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、建学の理念「世界トップレベルの医学を地域に」や使命をシラバス・学生便覧などで周知を図るよう努めている。さらにわかりやすい周知方法を検討することが今後の課題である。

領域 1.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、医学科教育プログラム委員会（仮称）の設置に向け準備をすすめている。

領域 1.3. 基本的水準における「改善のための助言」を受け、ディプロマ・ポリシーやコンピテンシーの妥当性などを検討するため、医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定である。

領域 1.4 基本的水準における「改善のための助言」を受け、使命および学修成果を策定する委員会に学生の意見を聴取するため、医学科教育プログラム委員会（仮称）、および医学科教育プログラム評価委員会（仮称）、医学部教育戦略会議に学生を参画させる予定としている。

医学科教育プログラム委員会（仮称）、医学科教育プログラム評価委員会（仮称）、医学部教育戦略会議がそれぞれの役割を果たし、継続的な使命と学修成果の質保障を実施すること、学修成果の卒前卒後の関連付けを強めるための制度作りが今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準 適合

特色ある点

「京都府公立大学法人第3期中期計画」において、使命をより具体化して定めている。
使命をもとに医学科基本教育理念を定めている。

改善のための助言

- ・使命や教育理念は授業要項（シラバス）や学生便覧にも明記し、学生に周知を図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・建学の理念である「世界トップレベルの医学を地域に」については、令和 5 年度医学科授業要項（以下「5 年度シラバス」という。）の冒頭「はしがき」（4 頁）に記載し、周知を図った。
- ・令和 4 年に大学学則の改定を行い、建学の理念に基づく本学の使命が第 1 条に記されていることを明示した。

- ・改定した学則の第3条に、医学科基本教育理念を教育研究上の目的として明記した。
- ・令和5年度の学生便覧に学則を掲載し、本学の使命、基本教育理念の周知を図っている。
- ・建学の理念、使命、基本教育理念の教職員・学生への浸透を図るため、周知方法について継続的に検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1 令和5年度シラバス（はしがき）
- ・資料2 京都府立医科大学学則
- ・資料3 令和5年度学生便覧

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・建学の理念において「世界トップレベルの医学を地域へ」として医学研究の達成が明示されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に設置を予定している医学科教育プログラム評価委員会（仮称）において、ディプロマ・ポリシーの再評価を行う予定である。その際、建学の理念に含まれる医学研究の達成や国際的健康、医療の観点も含め検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料5 京都府立医科大学医学科ディプロマ・ポリシー

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・カリキュラムの立案に責任を持つ委員会を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学科カリキュラムの立案と資源の活用、管理を行うため、令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）を設置する予定にしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

1.3 学修成果

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・ディプロマ・ポリシーと学修成果（コンピテンシー）の関係を明確にして周知すべきである。
- ・学修成果（コンピテンシー）は授業要項（シラバス）や学生便覧などに掲載して周知すべきである。
- ・ディプロマ・ポリシーおよび学修成果（コンピテンシー）と各科目の対応を授業要項（シラバス）に明記すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度シラバスにおいてディプロマ・ポリシーを明示し周知した。
- ・令和5年度に医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置し、ディプロマ・ポリシーとコンピテンシーを再評価する予定である。
- ・令和5年度に設置を予定している医学科教育プログラム委員会（仮称）において、コンピテンシーと各科目の対応を精緻化する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料5 京都府立医科大学医学科ディプロマ・ポリシー
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料7 京都府立医科大学医学科コンピテンシー

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育センターと臨床研修センターが体系的に連携して、卒業時の学修成果と卒業後研修終了時の学修成果を関連づけることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・本学附属病院卒業研修委員会には教育センター長がメンバーとして参加しており、情報共有が図られている。
- ・令和5年に設置予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）では、コンピテンシーについても検討を予定しており、当該委員会には本学附属病院臨床研修センター長も構成員になる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料8 京都府立医科大学附属病院卒業研修委員会規程

- ・資料9 京都府立医科大学附属病院卒後研修委員会名簿

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・使命を具体化した際に、学生から意見を聴取している。

改善のための助言

- ・使命および学修成果を策定する委員会には学生の代表を委員として参画させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）と医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定である。
- ・医学科教育プログラム委員会（仮称）は学修成果の策定を行い、医学科教育プログラム評価委員会（仮称）は教育的見地から学修成果の妥当性を検討する委員会として設置する予定である。
- ・医学科教育プログラム委員会（仮称）および医学科教育プログラム評価委員会（仮称）には、学生を構成員として参画させる。
- ・使命の策定にあたっては、教授会ならびに教育戦略会議において審議を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2 京都府立医科大学学則（教授会審議事項）
- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料10 京都府立医科大学医学部教育戦略会議規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・「京都府公立大学法人第3期中期計画」における使命の具体化の際に、学内のみならず、関西公立私立医科大学・医学部連合など、広い範囲の教育関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・本学の学修成果の策定と評価に関わる医学科教育プログラム委員会（仮称）と医学科教育プログラム評価委員会（仮称）には、それぞれ外部有識者として他学教育機関関係者を構成員とする予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

2. 教育プログラム

領域 2.1, 2.7 において基本的水準における「改善のための助言」および「改善のための示唆」を受け、カリキュラム全体を系統立てて運用する部門の設置を理解し、本学における当該部門として教育プログラム委員会（仮称）、および評価を担当する医学科教育プログラム評価委員会（仮称）の設置にむけて学内調整をおこなった。それには学生および医学科以外の教員、本学関係者をメンバーに含む予定である。

領域 2.2 において科学的思考を涵養するための課題や演習を行う時間を確保するため、履修単位数の整理・見直しを行い、三大学教養教育共同化科目の医学科学生の履修数が増加した。

領域 2.3 において臓器別ユニット講義のカリキュラム内に、基礎医学講義を組み込み、より立体的に臨床知識の構築ができるよう整備している。教育プログラム評価委員会（仮称）で評価を行う予定である。

領域 2.4 において令和 5 年度 1 年次カリキュラムから行動科学を必修科目とした。教養課程において行動形成の基本メカニズムを学び、4 年次の社会医学において行動医学、行動変容について学ぶため、保健医学の実践としての地域医療実習（5、6 年次）や認知行動療法を学べる状況になった。今後さらに縦のカリキュラムの強化・改変を進める。

領域 2.5 において令和 4 年度よりは現行実習の医行為・症候について逐次記録調査を行い、学生にフィードバックした。次年度以降は、診療科ごとに提供できる医行為・症候を調査し、重要な診療科の選定とその実習期間の検討を開始し、学生における医行為の包括同意の範囲の検討とあわせて、診療参加型実習の実装にむけたワーキング・グループを設置予定である。

領域 2.6 において本学の新しいカリキュラムツリーを令和 5 年度のシラバスに掲載し、学生・教員に広く周知した。

領域 2.8 において現行では、学生教育の運用は教育センターが担い、卒後教育は卒後臨床研修センターが担当しそれぞれが連携をとりながら独立して活動している。令和 4 年度は両センターが参画し、研修医マッチング説明会を実施した。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 現行の教育委員会の関連委員会として、令和 5 年度には教育プログラムの企画運営を統括して担う医学科教育プログラム委員会（仮称）の設置にむけて学内調整を開始している。
- ・ 医学科教育プログラム委員会（仮称）では、教学担当教員のみならず学生も参画し本学のカリキュラム全体を俯瞰的にみたプログラムの検討をしていく計画である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながる連続性を意識したカリキュラムを設定することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学年ごとに実施している総合講義に、キャリア関連の講義を組み込んでいる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 11 令和 5 年度シラバス（総合講義）

2.2 科学的方法

基本的水準 適合

特色ある点

- ・研究配属などを通じて科学的手法の原理、医学研究の手法を教育している。
- ・低学年から EBM 教育を開始し、さらに 5 年次の医療統計学や総合診療科などの臨床実習においても EBM 教育を行っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・科学的思考を涵養するための課題や演習を行う時間を確保するため、履修単位数の整理・見直しを行い、教養教育授業科目の必要単位数を令和 4 年度の 45.5 単位以上から、令和 5 年度は 35.4 単位以上に削減した。
- ・その結果、医学科学生の三大学教養教育共同化科目における講義履修数が増加した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 12 京都市立医科大学医学部医学科履修規程別表 1（4 年度・5 年度）
- ・資料 13 教養教育共同化令和 5 年度前期履修登録状況

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・1 年次において、医学研究の概要と研究留学についての、主に基礎医学系教授による総合講義を開講した。
- ・令和 5 年度においても、社会情勢や学生講義評価を鑑みて、適切な講義担当者による総合講義を開講する予定である。令和 6 年度以降は設置予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）において検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 14 令和 4 年度及び 5 年度シラバス（1 年次医学概論・人権教育）

2.3 基礎医学

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・臨床医学につながる基礎医学のカリキュラムをさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・3年次で開講している臓器別ユニット講義のカリキュラム内に、生理学・解剖学講義などの基礎医学系科目の講義を組込み、より立体的に臨床知識の構築ができるよう整備している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料15 令和4年度シラバス（ユニット講義）

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・2021年度に「分子病態感染制御・検査医学講座」を開設し、社会において必要とされる感染症教育を推進していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・「分子病態感染制御・検査医学講座」の開設により、通常の講義以外にも、令和4年度の新入生オリエンテーションにおいても、感染症教育を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料16 新入生オリエンテーション次第

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・選択科目の行動科学は必修科目としてすべての学生が学ぶべきである。
- ・行動科学に関連するすべてのカリキュラムを統轄する責任者を定め、体系的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度1年生カリキュラムより行動科学を必修科目に組込んだ。
- ・この改善により教養課程において行動形成の基本メカニズム（行動分析学、社会心理学）を学び、4年次の社会医学においてエビデンス・プラクティス・ギャップの改善を目標に行動医学、行動変容について学ぶため、保健医学の実践としての地域医療実習（5年生）や認知行動療法に結びつく基盤が作られた。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料17 令和5年度シラバス（行動科学、保健・予防医学授業日程、地域医療実習）

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・社会や医療システムにおいて必要と予測されることおよび人口動態や文化の変化から行動科学、社会医学のカリキュラムを調整および修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学教育に関する行動科学領域の重要性を学内で再確認し、令和5年度カリキュラムより1年次の必修科目に行動科学を追加した。
- ・疾病構造や医療が社会に大きく影響を受けることを、急激な人口動態の変化や文化としての飲酒などの具体例を提示することにより、深く、実践的な学びができるように、社会医学におけるシラバス（令和5年度）の到達目標の改訂を行なった。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料18 令和5年度シラバス（行動科学、保健・予防医学（特に項目12「社会の構造や変化から捉える医療」））

2.5 臨床医学と技能

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・臨床実習は「クリニカル・クラークシップⅠ」と「クリニカル・クラークシップⅡ」において合計68週で実施されている。

改善のための助言

- ・診療参加型臨床実習を充実させるべきである。
- ・重要な診療科において4週間以上の実習期間を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・本学により充実した診療参加型実習を実装するため、令和4年度より学生が病院実習で実際に経験している医行為・症候について逐次記録調査を行い、さらに過不足を自己判定できるように学生にフィードバックした。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・1年次で早期体験実習を行っている。

改善のための示唆

- ・1年次のみならず、2～4年次においても教育プログラムの進行に合わせて、徐々に実際の患者診療への参画を深め、臨床技能が培われるような教育計画を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・5年度においては、1年次における早期体験実習のみならず、1,3年次における統合授業、1から3年次における北部地域での早期体験見学実習、4年次における模擬患者を用いた医療面接およびグループディスカッションなど各学年に実際の患者診療への参画を深め、臨床的な興味や技能が培われる教育計画を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料19 令和5年度シラバス（早期体験実習Ⅰ、統合授業保健・予防医学授業日程）

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準 適合

特色ある点

- ・「三大学教養教育合同講義」を計画的に実施し、教養教育が充実していることは評価できる。

改善のための助言

- ・カリキュラム・ツリーを学生や教員に理解しやすいように周知し、教育効果を高めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・本学の新しいカリキュラムツリーについて、令和5年度シラバスに掲載し、学生・教員に広く周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料20 令和5年度シラバス（医学部医学科カリキュラムツリー）

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・「臓器別ユニット授業」にて、水平的統合および垂直的統合が行われた授業を開講している。

改善のための示唆

- ・基礎医学における水平的統合教育をさらに進めることが望まれる。
- ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合教育をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・基礎医学の水平的統合、また臨床医学が行動科学などの垂直的統合には、まずは各々の情報共有が肝要となる。教育センター教員（兼任）には、複数の基礎医学教員・臨床系教員が所属しており、毎月の教育センター会議を通してカリキュラム間の情報共有を行う機会とした。
- ・さらに令和5年度に設置予定の医学科教育プログラム評価委員会（仮称）で、水平・垂直統合の視点からのカリキュラム評価を順次行っていく方針である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学教育プログラム評価委員会規程
- ・資料21 京都府立医科大学教育センター名簿
- ・資料22 京都府立医科大学教育センター会議日程表

2.7 教育プログラム管理

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・教育カリキュラムの立案に責任と権限を持つ委員会を明確にすべきである。
- ・教育カリキュラムの立案に責任と権限を持つ委員会に、学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・カリキュラムの立案と責任に権限をもつ委員会として、医学科教育プログラム委員会（仮称）を令和5年度に設置し、学生代表も構成員とする予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案に責任と権限を持つ委員会を中心に、教育カリキュラムの改善を計画し、適切に実施することが望まれる。
- ・教育カリキュラムの立案に責任と権限を持つ委員会に、さらに広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・カリキュラムの立案と責任に権限をもつ委員会として、医学科教育プログラム委員会（仮称）を令和5年度に設置し、学生代表、医学科以外の教員および本学関係者も構成員とする予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・卒前教育と卒後教育の連携を行うための組織を明確にし、実質的な活動を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・現行、学生教育は教育センターが、卒後教育は卒後臨床研修センターが担当しており、それぞれが連携をとりながら独立して活動している。
- ・キャリア教育の一貫で広く協働しているが、令和4年度では両センターが参画し、研修医マッチング説明会を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料9 京都府立医科大学附属病院卒後研修委員会規程
- ・資料10 京都府立医科大学附属病院卒後研修委員会名簿
- ・資料23 京都府立医科大学教育センター規程
- ・資料24 令和4年度6年生向けマッチング説明会資料

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業生が働く環境から情報を十分に得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。
- ・得られた地域や社会の意見を教育プログラムの改良に確実に活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 現行では、卒業生の初期臨床研修先は把握しているが、研修医の就労状況や環境について大学主体で把握できている情報は少ない。今後、研修医卒後調査を実装すべく、卒業後も有効なメールアドレスリストの作成を検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 25 令和 4 年度医学科卒業生初期臨床研修先病院一覧表

3. 学生の評価

領域 3.1 における「改善のための助言」および「改善のための示唆」を受け、令和 5 年度シラバスにおいて、成績基準評価については、実習やレポートなど複数の指標で評価する場合の配分の提出や出席点の取り扱いなどを明確にするよう、所属長及びカリキュラム主任に周知を行ったうえで作成した。

また、領域 3.2 における「改善のための助言」、「改善のための示唆」を受けて、令和 5 年度以降に診療参加型実習に関する組織体制や評価方法などについて検討するため、臨床実習管理委員会（仮称）を設置することを検討中であるが、各学年での評価方法を具体化することや、形成的評価・フィードバックを充実させることが今後の課題である。

3.1 評価方法

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・ディプロマ・ポリシーの到達度を確実に評価できる体制を整えるべきである。
- ・知識のみならず、各学修段階において技能・態度評価を確実に実施すべきである。
- ・学生の評価については、筆記試験・レポート・態度などの評価項目ごとに配分を定めて明確な合格基準を授業要項（シラバス）に記載すべきである。
- ・教育と評価を担当する当事者以外の専門家による評価の吟味を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度シラバスにおいて、成績基準評価については、実習やレポートなど複数の指標で評価する場合の配分の提出や出席点の取り扱いなどを明確にするよう、所属長及びカリキュラム主任に周知を行ったうえで作成した。
- ・その後、同じく令和 5 年度に設置予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）において、各学年におけるマイルストーンを予定する予定である。
- ・ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーについては、令和 5 年度に設置予定の医学科教育プログラム評価委員会（仮称）において妥当性について検証する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 26 シラバス記載方法資料_KPUM 追記 v2
- ・資料 27 シラバス原稿作成依頼文_依頼用

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・各科目における評価方法を明確にし、その信頼性・妥当性を検証することが望まれる。
- ・技能と態度の評価に、MiniCEX や 360 度評価などの新しい評価法を導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・各科目の評価については、令和 5 年度シラバスにおいて、成績基準評価の内容を明確にし、所属長やカリキュラム主任に周知を図ったうえで作成した。
- ・評価方法の信頼性等については、令和 5 年度に設置予定の医学科教育プログラム評価委員会

(仮称)において、検証する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料 26 シラバス記載方法資料_KPUM 追記 v2
- ・資料 27 シラバス原稿作成依頼文_依頼用

3.2 学生の受け入れ

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・臨床実習でルーブリック評価を行っている。
- ・臨床実習において一部の診療科でポートフォリオを用いた形成的評価を開始している。

改善のための助言

- ・目標とする学修成果を学生が達成していることを保証できるよう修得すべき内容を定義し、適切な評価法を用いて評価すべきである。
- ・学生の学修を促すように、学修段階に応じた評価を行うべきである。
- ・全学年で形成的評価をさらに活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 4 年 12 月開始のクリニカル・クラークシップⅡにおいて、これまで一部の診療科での実施であったポートフォリオを全診療科に拡張し、各診療科での実習終了時にこのポートフォリオを用いて教員とともに振り返りを行わせる形成的評価を行なっている。
- ・令和 5 年度より、これまで 1 年生から 3 年生までを対象としていたメンター制度を 4 年生まで拡張する。また 5 年生及び 6 年生については、国試対策委員会が面談を行い、学修に問題のある学生については、クラス担任会議において情報共有していく予定である。
- ・留年した学生については、年度当初にクラス担任や学生部長、教育担当副学長が中心となり、学修状況や学修に支障となっている要因がないなどを確認するため、面談を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 28 ポートフォリオ
- ・資料 29 令和 5 年度メンター教員等一覧表

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを体系的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・留年した学生については、年度当初にクラス担任や学生部長、教育担当副学長が中心となり、学修状況や学修に支障となっている要因がないなどを確認するため、面談を行っている。
- ・臨床実習においては、令和 5 年度以降に設置予定の臨床実習管理委員会（仮称）にて評価のフィードバック方法等について検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料なし

4. 学生

領域 4.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、医学部の使命や教育プログラム、卒業時に期待される能力を相応する入学者選抜方式について、入学試験制度検討委員会、および医学部医学科入学者選抜委員会を中心に継続的に審議することとした。令和5年度4月にはあらたに入試室を設置しその体制を強化する予定である。

領域 4.2 令和5年には医学科教育プログラム委員会（仮称）、医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を新規に設置し、教学の実質的な運用について継続的に協議と改良を行っていく方針である。

領域 4.3 令和5年度よりメンター制度を4年生まで拡充する方針とし、5,6年生には国家試験対策委員会や教育センター教員によるサポート体制を充実化した。

領域 4.4 使命については、教育方針の策定を検討する会議体の再整備を検討した。

いずれの会議体にも学生代表も加わることとしているが、実質的な議論に学生の意見を継続的に反映させることが今後の課題といえる。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・アドミッション・ポリシーのすべてに対応した選抜方法について明確に基本方針に記載すべきである。
- ・身体に不自由がある学生の入学について、方針を明文化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・選抜方法については、入学試験制度検討委員会、および医学部医学科入学者選抜委員会において継続的に審議している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 30 医学部医学科入学者選抜委員会設置要綱
- ・資料 31 医学科入学試験制度検討委員会に関する要綱

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学者選抜と医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べることが望まれる。
- ・成績開示のみでなく、入学決定に対する疑義申し立ての制度を明文化することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・入学者選抜の全般的実務を担う組織として、教育センター内に5年4月1日付けで入試室を設置する予定である。入試室では入学者選抜に関する企画立案を主に行い、教員（任期性）3名を配置している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 32 京都府立医科大学教育センター規程新旧対象表（入試室関係）

4.2 学生の受け入れ

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・教育プログラムの検討や立案、あるいは、評価する組織を設置するための検討を行い、令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）及び医学科教育プログラム評価委員会（仮称）の設置を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・入学者の数と資質について、京都府などの地域の教育関係者と十分な協議が行われている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度開設の入試室では、京都府教育委員会・京都市教育委員会と連携し、情報共有・交換、人的交流を行っていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準 適合

特色ある点

- ・低学年のメンター制度、各学年の担任制度を構築している。

改善のための助言

- ・学修上の問題や経済的な事情に対応した支援に加えて、社会的や個人的事情に対応した学生を支援するプログラムを提供すべきである。
- ・低学年のみならず、全学年を通じてメンター制度を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・現在1年生から3年生までに適用しているメンター制度について、令和5年度には1年生から4年生までに拡大すべく準備を進めた。
- ・メンター制度を通じて、学生の個別事情を把握しクラス担任会議や教育センターと情報共有を行うとともに、必要に応じて教育委員会において情報共有されている。
- ・毎年、臨床系・基礎系教員約15名程度から構成される、単年構成の「国家試験対策委員会」を組織しており、おもに6年生の学修到達や学生生活全般に関してのメンターの役割を担って

いる。令和4年度も5年生進級試験結果・国家試験対策外部模試の結果を元に、学生20名程度に個別面談を行い、学習面・生活面両者のサポートを密に行った。

- ・5年生に対しては、教育センター教員が令和4年度秋から開始された臨床実習（クリニカル・クラークシップI）を通して全員と面談を実施しており、個別事情の把握に努めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料29 令和5年度メンター教員等一覧表
- ・資料33 クリニカル・クラークシップI配置表

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・低学年からのキャリアガイダンスとプランニングを充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・地域枠の1年生から3年生の希望を対象とした北部地域での早期体験実習については、本学附属病院北部医療センター等で現地実習を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程
- ・資料34 令和4年度地域枠学生早期夏期研修実施要領

4.4 学生の参加

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定を審議する委員会に学生を委員として参加させ、実質的な議論に加えるべきである。
- ・教育プログラムの策定・管理・評価を審議する委員会に学生を委員として参加させ、実質的な議論に加えるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・現行の教育方針の策定を検討するための会議体（教育戦略会議）を再整備し、そこに学生自治会の代表を参画させ使命の策定について継続的に審議する方針で調整している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料10 京都府立医科大学医学部教育戦略会議規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・顕著な活動成果に対して表彰を行っている。

改善のための示唆

- ・他の学生活動と学生組織をさらに奨励する仕組みを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和4年度に学生自治会規約を再度審議し、自治会会長（4年生）を設置するとともに、学生

組織と大学側がさらに良好で協力的な連携がとれるよう整備した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 35 京都府立医科大学全学学生自治会規約

5. 教員

領域 5.1 の基本的水準における「改善のための助言」を受け、准教授、講師、助教の選考規程において教育に係る選考基準が明記されていないため、令和 5 年度以降に「医学部学科准教授・講師・助教・助手選定に関する規程」を改正する予定にしている。領域 5.2 の基本的水準における「改善のための助言」「改善のための示唆」を受け、令和 5 年度に新たに採用される教員を含む全教員を対象に、医学カリキュラムと教員業務に関するFDを開催するため、教育センターを中心に準備を進めた。

また、令和 5 年度にカリキュラムの策定に責任をもつ医学科教育プログラム委員会（仮称）とカリキュラムを評価する医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定である。これらの委員会が機能していくなかで、教員バランスの改善に一定配慮した教員配置についても検討する。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・教員の募集と選抜方針は規程に定められている。

改善のための助言

- ・適切にカリキュラムが実施できるように講座間の教員バランスをさらに改善すべきである。
- ・教授の選考では、人物像、履歴、研究業績、健康状態が判定水準となっており、教育にかかる業績も判定水準に含めるべきである。
- ・准教授、講師、助教、助手の選考についても判定水準を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度にカリキュラムの策定に責任をもつ医学科教育プログラム委員会（仮称）とカリキュラムを評価する医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定である。これらの委員会が機能していくなかで、コンピテンシーや単位を基盤にした教員バランスの改善に配慮し、教員配置について検討していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・使命である「地域医療の実践・教育」に資するために、「大学附属病院北部医療センター」を設置して活動させるなど、課題の対応を行っている。
- ・地域医療の振興に資するため、へき地勤務に対して経済的配慮がなされている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・地域医療の実践・教育を充実するため、附属北部医療センターを臨床・教育・研究の活動拠点とする総合医療・地域医療学教室の教授選考を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 36 総合医療・地域医療学教室の教授選考資料

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・平成 29 年度から開始された 1 泊 2 日の「夏期課題集中検討会」ではワークショップ形式で教育にかかる議論を行っている。

改善のための助言

- ・業績評価を教員にフィードバックし、個々の教員の能力開発につなげるべきである。
- ・新任教員を含め、全教員を対象に教育プログラム全体を周知する機会をさらに充実させ、教育の質を向上させるべきである。
- ・臨床実習を担当する教育関連病院のすべての指導医に対して、学修成果、診療参加型臨床実習のあり方、学生に許容される医行為水準、評価法などに対する FD を徹底し、臨床実習の内容と成果を向上させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 4 年 7 月 29 日と 30 日に「大学設置基準の改正と本学教育制度」をテーマとして、夏期課題集中検討会をワークショップ形式で開催した。
- ・令和 5 年 2 月 23 日に国際医療福祉大学医学部 医学教育統括センター 准教授 押味貴之先生を講師に招き「学生が発言する講義の作り方」をテーマに FD を開催した。
- ・令和 5 年度に新たに採用される教員を含む全教員を対象に、医学カリキュラムと教員業務に関する FD を開催するため、教育センターを中心に準備を進めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 37 令和 4 年度 夏季集中課題検討会資料
- ・資料 38 医学教育 FD 開催チラシ（テーマ：学生が発言する講義の作り方）
- ・資料 39 医学教育 FD 新任教員 FD 案内チラシ

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・教養教育、基礎医学教育、臨床教育のそれぞれで学生と教員数の比率が保持されている。

改善のための示唆

- ・カリキュラムの改訂や教育手法の変化に対応した教員の適正な配置について継続的に調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度にカリキュラムの策定に責任をもつ医学科教育プログラム委員会（仮称）とカリキュラムを評価する医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定である。これらの委員会活動を通じて、教員バランスの改善に一定配慮した教員配置についても継続的に調整する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程
- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程

6. 教育資源

領域 6.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、国試対策委員の学生や学年代表の学生を通じて、学生の自学自修のために使用可能な実習室について周知を行っている。また、図書館が位置する広小路キャンパスについては、学生がくつろぎ、勉学に励める空間を整えるなど教育研究環境を充実させる「広小路キャンパス活性化プロジェクト」を令和5年度より開始予定である。

領域 6.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、クルニカル・クラークシップ2において令和3年度から導入した到達度アンケートを通じて、症例について把握している。

領域 6.5 基本的水準における「改善のための助言」を受け、令和5年度に設置予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）や医学科教育プログラム評価委員会（仮称）において、教育専門家を学外委員として委嘱する予定である。また、令和4年度以降、教育FDやワークショップにおいて、教育専門家を招聘し、教育技法や評価方法について、学内での情報共有を図っていく。令和4年度は、医学教育FDとして国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター押見貴之准教授を招聘し、「学生が発言する講義の作り方」と題した講演、FD研修として「大学設置基準改正と本学教育制度」をテーマに夏期課題集中検討会を実施し、文部科学省高等教育局大学振興課江戸朋子課長補佐を招聘し、基調講演を実施した。

医学科教育プログラム委員会（仮称）や医学科教育プログラム評価委員会（仮称）および診療参加型臨床実習管理委員会（仮称）の運営と、それら委員会への外部委員および学生の参加が今後の課題といえる。

6.1 施設・設備

基本的水準 適合

特色ある点

- ・下鴨キャンパスに充実した教育設備があり、三大学合同の教養教育が行われていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・自習室や図書館などの施設利用に関する学生への情報提供をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・国試対策委員の学生や学年代表の学生を通じて、学生の自学自修のために使用可能な自習室について周知を行っている。
- ・附属図書館が位置する広小路キャンパスをより一層有効活用することで、学生がくつろぎ、勉学に励める空間を整えるなど教育研究環境を充実させ、その結果として大学全体の活性化を目指す「広小路キャンパス活性化プロジェクト」を令和5年度より開始予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 40 実習室使用願い
- ・資料 41 広小路キャンパスの活性化について

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・施設や設備に関して、教職員や学生からのフィードバックに定期的な評価を行い、学修環境の改善につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学生も参画し、定期的で開催している拡大教育センター会議において、学生及び教職員から定期的に施設や設備に関する意見を聴取するなどして、施設や設備そのもの、および施設の使用時期等などへの配慮を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 42 京都市立医科大学拡大教育センター会議委員名簿

6.2 臨床実習の資源

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・使命に基づいて、地域医療の経験を積めるように、学外実習において5病院を選定し学生を派遣している。

改善のための助言

- ・臨床実習施設において個々の学生が経験した患者数や疾患分類を把握した上で、適切な臨床実習資源を提供すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・クリニカル・クラークシップⅡにおいて、令和3年度から行なっている、「CC2到達度アンケート」を通じて、学生が経験した症例について把握している。
- ・令和5年度には、クリニカル・クラークシップⅠおよびⅡにおいて、各診療科で経験できる症例、手技に関するアンケートを行い、適切な臨床実習資源であるかどうかの調査を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 43 CC2到達度アンケート

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・患者や地域住民からの意見や要望を体系的に収集し、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置し、臨床実習資源の適切性を評価・検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都市立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案

6.3 情報通信技術

基本的水準 適合

特色ある点

- ・無線 LAN やネットワーク通信容量の拡大など、オンライン学修環境の充実を図っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度からの電子シラバスを導入に向けて令和4年度から作業を進めており、より充実したオンライン学修環境の整備を図る予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料44 Webシラバス_操作マニュアル(閲覧用)

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・附属病院において、学生が利用できる電子カルテ端末を大幅に増やしたことは評価できる。
- ・バーチャルスライドシステムの導入など、自己学習コンテンツの充実を図っている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和7年度に予定されている附属病院の電子カルテの更新にあたってのワーキンググループに、教育センター教員も参加することで、診療参加型臨床実習における患者同意や学生カルテの運用に関して検討を進める予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

6.4 医学研究と学識

基本的水準 適合

特色ある点

- ・研究配属、「KPUM基礎医学ミニシンポジウム」など、医学研究と教育との関係性を育む教育プログラムが実施されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

6.5 教育専門家

基本的水準 適合

特色ある点

- ・「臓器別ユニット授業」などの開発と導入に教育センター教員が主体的に関与している。

改善のための助言

- ・カリキュラム、教育技法および評価方法の開発における教育専門家の利用についての方針を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・医学教育FDとして国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター押見貴之准教授を招聘し、「学生が発言する講義の作り方」と題した講演を実施した。
- ・FD研修として「大学設置基準改正と本学教育制度」をテーマに夏期課題集中検討会を実施し、文部科学省高等教育局大学振興課江戸朋子課長補佐を招聘し、基調講演を実施した。
- ・令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）や医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置し、教育専門家を学外委員として委嘱する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料37 令和4年度夏季集中課題検討会資料
- ・資料38 医学教育FD開催チラシ（テーマ：学生が発言する講義の作り方）

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

6.6 教育の交流

基本的水準 適合

特色ある点

- ・2011年より京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都薬科大学の4大学が「ヘルスサイエンス系の教育研究の連携に関する協定」を締結し、「京都4大学連携機構」を設置して、ヘルスサイエンス分野における教育研究を推進していることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・ 国際交流に貢献した教職員・学生の表彰や、国際交流のための学生団体の活動支援など、交流促進の醸成に努めている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

7. 教育プログラム評価

領域 7.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、令和 5 年度には、教育プログラムのモニタと評価について、責任をもって行う医学科教育プログラム委員会（仮称）と医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定としている。

領域 7.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、教育プログラムに関する学生からのフィードバックを計画し、教育プログラムに反映できるよう体制を構築することとした。

領域 7.3 基本的水準における「改善のための助言」を受け、教育プログラム委員会と教育プログラム評価委員会は、教育委員会や教育センター、入試室は情報を共有し連携して、学生と卒業生の情報を得て分析し、教育プログラムに活用する予定としている。

領域 7.4 基本的水準における「改善のための助言」を受け、教育プログラム委員会、および教育プログラム評価委員会で検討した内容について、教育 FD 等により、広く教育の関係者と共有するよう検討している。

医学科教育プログラム委員会と医学科教育プログラム評価委員会を設置した後、教育プログラムへのフィードバックを目的にしたアンケートなどの情報を系統的に収集・解析し、現在のコンピテンシーの評価・改訂やマイルストーンの設置を行うことは、今後の課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・平成 28 年に IR センター（現 IR 室）を設置している。

改善のための助言

- ・IR 室が行った収集・分析結果を基に教育プログラムのモニタと評価を責任をもって行う委員会を設置すべきである。
- ・カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について、教育プログラムを体系的に評価する仕組みを確立し、カリキュラムの改善に確実に反映させるべきである。
- ・教育プログラムのモニタと評価には、学修成果に基づいた評価項目を用いるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度に医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置することとなり、本学のコンピテンシーについて評価を行う予定である。さらに、IR 室が収集・分析したデータを同評価委員会で共有し、教育プログラムを評価できる体制を整える予定である。
- ・令和 5 年度に設置する予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）では、同評価委員会（仮称）の評価に基づいて、本学のコンピテンシーの見直しやマイルストーンの設定などに着手する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・使命および学修成果に基づく評価項目を用いて教育プログラムを評価することが望まれる。
- ・長期間で獲得される学修成果を定義し、その達成度に基づいて教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に医学科教育プログラム評価委員会（仮称）の設置を行い、本学のコンピテンシーについて、評価を行うことにしている。さらに、令和5年度に設置する医学科教育プログラム委員会（仮称）において、本学のコンピテンシーの見直しやマイルストーンの設定などに着手する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・授業評価、会議などにおける意見のみならず、教員と学生から学修成果やカリキュラムなどの教育プログラムに関するフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和3年より導入したユニット講義に関して学修成果や理解度も含めて包括的なアンケート調査を年度末に実施した。
- ・令和4年度より新規開講した4年次の国際医学英語（小グループ講義）では、学生のみならず、英語チューター教員（臨床医）に広く講義のフィードバックをgoogle formを用いて聴取した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料45 ユニット講義に関する学生アンケート
- ・資料46 国際医学英語アンケート

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、その結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・各講座の授業終了時に学生から授業に関するアンケートを実施していたが、カリキュラムに関する内容もアンケートに組み込むことを、令和5年に設置予定の医学科教育プログラム評価委員会（仮称）で検討し、系統的にフィードバックを行い、教育プログラムへ反映できるシステムの構築を検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の観点から学生と卒業生の情報を得て分析し、教育プログラムの評価に活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度に医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置し、学生などを委員として入れ、使命とコンピテンシーが達成されているかという観点から、教育プログラムの評価することになっている。
- ・また、令和 5 年度以降に本学卒業後 2 年目までの医師を対象として、アンケート調査を行う予定であり、今後、系統的に情報の収集を行うシステムの構築を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生をとりまく社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況に関して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・入学時成績と学生の実績を継続的、定期的に分析し、責任がある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。
- ・学生カウンセリングについて、学生の実績の分析をさらに充実させ、責任がある委員会を設置して、フィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度から、1 年生から 4 年生まではメンター制度、5 年生および 6 年生は、国試対策委員会において学生面談を通じて、学業や生活様式等に係る情報を収集し、フォローが必要な学生については、クラス担任会議にて情報共有し、必要に応じて教育委員会を通して令和 5 年度設置予定の医学科教育評価プログラム委員会（仮称）に情報提供を行うよう体制整備に着手する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・教育プログラムのモニタと評価に責任を持つ委員会を設置し、教職員や学生など教育に関わる主要な構成者を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度には、カリキュラムに関する運営会議体としての医学科教育プログラム委員会（仮

称)、および教育プログラムの評価に責任をもつ委員会として医学科教育プログラム評価委員会(仮称)を設置する予定である。教職員以外に学生などを構成員とすることで、幅広い意見を反映できるよう予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・広い範囲の教育の関係者に、使命と学修成果の観点からの分析に基づく教育プログラム評価の結果の閲覧を許可することが望まれる。
- ・さらに広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度には、カリキュラムに関する運営会議体としての医学科教育プログラム委員会(仮称)、および教育プログラムの評価に責任をもつ委員会として医学科教育プログラム評価委員会(仮称)を設置することになっている。
- ・評価内容は、医学科教育プログラム委員会と共有され、コンピテンシーやディプロマ・ポリシーの改訂や、教育プログラムの改訂を進めていく予定である。
- ・さらに、教育委員会や教育センターは、教育FD等を実施する主体となり、教育プログラムに関する情報を、広く教育の関係者と情報共有するよう検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料47 京都府立医科大学医学部教育委員会規程(一部改定案)

8. 統轄および管理運営

領域 8.1 基本的水準における「改善のための助言」を受け、令和 5 年度に教育プログラム委員会と教育プログラム評価委員会を設置する予定で規程を整備している。なお、両委員会の設置に伴い、教育委員会の所管事項についても、見直しを行い、規程を改訂する予定である。令和 5 年度に設置予定の教育プログラム委員会や教育プログラム評価委員会において、所管事項を明確にするとともに、学生や学外の教育専門家を委員として委嘱する予定にしている。

8.1 統轄

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・法人および大学を統轄する組織と機能が規定されている。

改善のための助言

- ・教学に関わる各種会議・委員会の役割と権限を明確に規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）と医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定で規程を整備している。なお、両委員会の設置に伴い、教育委員会の所管事項についても、見直しを行い、規程を改訂する予定である。
- ・現在、メンターによる学生からの面談内容で、フォローが必要な学生についてクラス担任会議で情報共有を行っているが、今後、クラス担任会議の役割を明確にするため、同規程を整備する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料 47 京都府立医科大学医学部教育委員会規程（一部改正案）

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・教学を統轄する委員会組織を明確にし、主な教育の関係者およびその他の教育の関係者の意見を反映させ、決定事項の透明性を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和 5 年度に設置予定の医学科教育プログラム委員会（仮称）や医学科教育プログラム評価委員会（仮称）において、所管事項を明確にするとともに、学生や学外の教育専門家を委員として委嘱する予定にしている。
- ・教育戦略会議の構成員に学生や学外委員を入れて再編するために、教育戦略会議規程を改正する準備を行なっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案
- ・資料 10 京都府立医科大学医学部教育戦略会議規程案
- ・資料 47 京都府立医科大学医学部教育委員会規程（一部改正案）

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準 適合

特色ある点

- ・学長をはじめとする教学のリーダーシップの責務が明確である。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・毎年、外部委員が含まれた京都府立医科大学学長選考会議において、学長の業績評価を実施しており、その結果を本学ホームページに掲載することにより学長としての責務を明確化している。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・教学におけるリーダーシップの評価は医学部の使命と学修成果に照合して行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・使命の策定に関わる教育戦略会議の再編を通して、委員長である学長のリーダーシップを明確化する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 10 京都府立医科大学医学部教育戦略会議規程案

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準 適合

特色ある点

- ・カリキュラムを遂行するための教育関係予算を含む責任と権限が明確である。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・引き続き教育担当副学長・教育センター長・学生部長を中心に、教育委員会で予算決議を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・教員の報酬を含む教育資源配分の決定について自己決定権を持っている。

- ・医学の発展と社会からの要請に基づき、必要な教育資源として新たな教室の開設を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和4年度には、総合医療・地域医療学教室を新たに開設し、本学の使命でもある地域医療の充実をさらに図るべく体制を強化した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料37 総合医療・地域医療学教室の教授選考資料

8.4 事務と運営

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・管理運営の質保証のため、職員研修（SD）などをさらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・京都府が実施する職員研修に職員を派遣したほか、採用・転入した事務・技術職員を対象に令和4年6月に転入者研修を実施し、法人・大学・病院の概要を的確に把握させ、大学職員として必要な基礎知識の定着を図った。
- ・令和4年度における夏季集中課題検討会には教員および職員が参加した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料37 令和4年度 夏季集中課題検討会資料

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準 適合

特色ある点

- ・京都府行政の保健医療部門や保健医療関連部門と連携し、地域医療に貢献していることは評価できる。
- ・「府民公開講座」を定期的を開催するなど、地域社会の医療意識向上に努めていることは評価

できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

9. 継続的改良

領域9 基本的水準における「改善のための助言」を受け、令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）と医学科教育プログラム評価委員会（仮称）を設置する予定で規程を整備、また、教育委員会の所管事項についても見直し、規程を改訂する予定である。教育プログラム評価委員会の評価に基づき、教育プログラム委員会では定期的にプログラムを見直し、課題を修正、継続的に教育を改良していく。

また、1巡目、2巡目の評価で指摘された「改善のための助言/示唆」について十分な改善が認められない教学における課題を学生および教職員が共有できるよう、FD、SDの充実化を図り、規程等の見直しを順次行う。

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・大学改革支援・学位授与機構（旧大学評価・学位授与機構）による機関別認証評価を2010年度と2017年度に受けている。また、2015年度に医学教育分野別評価を受けている。

改善のための助言

- ・独立してプログラム評価を行う委員会を設置し、教育プログラムを定期的に見直し、課題を修正して、教育の継続的な改良を行うべきである。
- ・領域3と領域7をはじめ、1巡目の評価に指摘された「改善のための助言/示唆」について十分な改善が認められない点も多くあり、教学における課題を学生および教職員が共有して、可及的速やかに修正すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度に医学科教育プログラム委員会（仮称）と同評価委員会（仮称）を設置する予定で規程を整備する予定である。また、教育委員会の所管事項についても見直し、規程を改訂する予定である。医学科教育プログラム評価委員会の評価に基づき、教育プログラム委員会では定期的にプログラムを見直し、課題を修正、継続的に教育を改良していく。

- ・ 1 巡目、2 巡目の評価で指摘された「改善のための助言/示唆」について十分な改善が認められない教学における課題を学生および教職員が共有できるよう、FD、SD の充実化を図り、規程等の見直しを順次行っている。

善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 4 京都府立医科大学医学科教育プログラム評価委員会規程案
- ・ 資料 6 京都府立医科大学医学科教育プログラム委員会規程案

質的向上のための水準 評価を実施せず
評価を実施せず